

ユネスコスクール間交流のための施策について

1 国際的な教職員交流（平成25年1月現在）

■ 東アジア地域における教職員交流

(1) 中国

①招へい

- 平成14年度から実施
- 中国の初等中等教育機関の現職教職員を2週間程度日本に招へいし、日本の教育制度・教育事情に関する理解を深める機会を提供するとともに、日本人教職員等との交流を行うことにより、日中両国民の相互理解の増進及び教職員の資質向上を図る
- 平成18年度から140名に、21年度から150名に拡大して実施

②派遣

- 平成15年度から文部科学省予算により実施
- 日中国交正常化35周年を記念する平成19年からは中国教育部による日本教職員招へいプログラムとして実施（ただし、日本・中国間の往復航空運賃、日本国内交通費及び宿泊費は日本側負担、中国国内の交通費及び滞在費は中国負担。）

(2) 韓国

①招へい

- 平成12年度から実施
- 学校及び文化・社会教育施設等の訪問を通じ、我が国の教育制度、教育事情に関する理解を深める機会を提供するとともに、両国の教職員が幅広く交流を行い、両国民の相互理解と友好の促進に資することを目的とする
- 平成14年度に100名に、平成18年度から150名に拡大して実施

②派遣

- 平成15年度から文部科学省予算により実施
- 平成17年度から韓国政府による日本教職員招へいプログラムとして実施

(実績)

事業	年度	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	計
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
韓国教職員招へいプログラム		50	50	99	99	99	98	159	158	148	149	149	148	147	1,553
中国教職員招へいプログラム				97	100	99	101	135	135	133	142	130	134	—	1,206
招へい計		50	50	196	199	198	199	294	293	281	291	279	282	147	2,759
日本教職員韓国派遣プログラム					11	16	24	26	29	52	53	53	53	53	370
日本教職員中国派遣プログラム					12	15	14	14	22	22	25	25	25	25	199
派遣計					23	31	38	40	51	74	78	78	78	78	569

■ ESD日米教員交流プログラム

(1) ESD日米教員交流プログラムの概要

平成20(2008)年6月の第23回カルコン合同会議において採択された「報告書」の「政策提言」を受けて発足。平成21(2009)年度から所要の予算を措置。事業は日米両国の相互費用負担により日米教育委員会が実施。

持続発展教育(ESD)を共通のテーマとし、日米の相互教員交流を通じて、意見交換、共同研究を行うことにより、日米の教育交流及びESDの促進を図ることを目的とする。これまでに、延べ268名の日米教員の交流が図られている。

(2) 実績

○ESDベスト・プラクティス・カンファレンス

2009年10月31日～11月6日

- ・開催地：オレゴン州ポートランド市
- ・ESDに関する優れた取組を行っている教員日米各15名、有識者、日米政府関係者が参加。

○2010年ESD教員交流プログラム

- ・日本人教員(47名)渡米

2010年4月24日～5月7日(合同会議5月3日～6日)

訪問都市：ワシントンDC、ニューヘイブロン(CT)、ミネアポリス(MN)、ポートランド(OR)、サンフランシスコ(CA)

- ・米国人教員(48名)渡日

2010年6月23日～7月6日(合同会議7月3日～4日)

訪問都市：東京、北海道当別町、宮城県気仙沼市、愛媛県松山市

○2011年ESD教員交流プログラム

- ・日本人教員渡米(48名)

2011年4月22日～5月7日(合同会議5月2日～4日)

訪問都市：ワシントンDC、バーリントン(VT)、ミシゴキー(WI)、アルバカーキ(NM)、サンフランシスコ(CA)

- ・米国人教員渡日(48名)

2011年6月21日～7月5日(合同会議7月1日～3日)

訪問都市：神戸市、石川県金沢市、岡山県総社市、長崎県

○2012年ESD教員交流プログラム

- ・日本人教員渡米(24名)

2012年4月21日～5月4日(合同会議4月30日～5月2日)

訪問都市：ワシントンDC、カンザスシティ(MO)、シアトル(WA)、サンフランシスコ(CA)

- ・米国人教員渡日(23名)

2012年6月19日～7月2日(合同会議6月29日～7月1日)

訪問都市：東京都、奈良県奈良市、広島県広島市

2 教育委員会主導によるユネスコスクールを通じたESD振興について

(1) 大牟田市教育委員会（福岡県）

大牟田市では、平成23年度に市内全小・中・特別支援学校（小学校22校、中学校11校、特別支援学校1校）がユネスコスクールに加盟し、そのため大牟田市は「ユネスコスクールのまち おおむた」として全市をあげてユネスコスクールを推進している。

各学校では、校務分掌に「ユネスコスクール担当者」を位置づけ、全校からなる「ユネスコスクール担当者会（会長：学校長）」を組織し、年度当初に組織作りや年間スケジュールを確認している。

加えて、各学校の教育指導計画の中に「持続発展教育年間指導計画」を明示し、計画的に持続発展教育を実施していくと共に、各学校の年間活動報告書を1冊の冊子にまとめ、全校の実践の交流も図っている。

ユネスコスクールでの学びを通し、①他者の立場や考えなどに共感し、協力して物事をすすめようとする態度、②人・もの・こと・社会・自然などと自分のつながりを大切にしようとする態度、③自分の発言や行動に責任をもち、物事に主体的に参加しようとする態度、④情報や資料等をもとに公平に判断し、深く考え、肯定的に受けとめたり、代わりの案を考えたりする力、⑤人・もの・こと・社会・自然などのつながりやかかわりを理解し、総合的に考える力、⑥人の気持ちや考えを大切にしたり、自分の気持ちや考えを伝えたりする力、などの能力を高めたいと考えている。

【学校間交流の取組例（平成24年度）】

■「ユネスコスクール研修会」

「ユネスコスクール担当者会」と教育委員会による合同研修会。小・中各1校ずつの実践発表や外部講師を招いて指導助言・講話を実施。

■「大牟田市ユネスコスクール子どもサミット」（参加人数：8校400人）

市内の小中学校の中から希望する学校によって開催し、ユネスコスクールについて広く保護者・市民に紹介しESDに対する理解を深めるとともに、当該年度の学習経過及び成果を発表し交流を図った。

■「ユネスコスクール地域交流会 in 九州」（参加人数：200人）

日本／ユネスコパートナーシップ事業の一環として、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）に委託し、地域内・地域間交流を図った。

(2) 多摩市教育委員会（東京都）

多摩市では、持続可能な社会の担い手を育成をするため「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズとして持続発展教育（ESD）を推進している。

現在の多摩市の子どもたちを将来、大人になるまでに、身近にある環境や社会的な問題について多面的に考え、解決を図っていくことができる人材や、地域の文化を理解し、未来に継承発展させていくことができる人材として育成することを目指している。そのためには、学校教育の中で、身に付けた知識を活用して実践や行動につなげていく力や、多様な人たちと対話をしながら地域の未来を創造できる力等を育ていくことが重要であると考えている。

多摩市では、ユネスコスクールへの全校申請（加盟：小学校15校、中学校7校、申請中：小学校3校、中学校2校）を行うとともに、このような能力や態度が身に付くことを目指した持続発展教育（ESD）を多摩市の全公立小・中学校で実践することで、2050年には今の子どもたちがより暮らしやすいまちづくりを考えるとともに、次の世代に引き継ぐために力を合わせて自ら築いていくことができることを期待している。

【学校間交流の取組例（平成24年度）】

■ 「多摩市みらい会議」

「ESDミーティング」（対象：多摩市民、多摩市立小・中学校児童・生徒の保護者及び教員、内容：各学校からのESD実践報告）、「ユネスコスクール研修会 in 多摩～教師のための持続発展教育（ESD）の授業公開セミナー～」及び「ESDフォーラム」（対象：多摩市民、多摩市立小・中学校児童・生徒の保護者及び教員、内容：児童によるESD発表、ディスカッション等）の3つの会を「多摩市みらい会議」と位置付け、地域の方々と共に多摩市のESDを推進。

■ 「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」ホームページの開設

多摩地域でESD（持続発展教育事業）の取り組みを広めていくため、先駆的に進めている玉川大学が主体となり、ESD及びユネスコスクールとしての取り組み事業等を掲載し、情報提供・共有する場としてホームページを開設（<http://unesco-school-tama.jp/index.html>）

■ 「ユネスコスクール地域交流会 in 関東」（参加人数：約250人）

日本／ユネスコパートナーシップ事業の一環として、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）に委託し、地域内・地域間交流を図った。

3 ユネスコスクール全国大会概要

(1) 趣旨

本大会は、ユネスコスクールの活動及び持続発展教育（ESD：Education for Sustainable Development）の実践研究等について相互交流を図るとともに、我が国のESDのさらなる普及・発展、その調査研究の充実に寄与することを目的として、「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD、2004－2015）」の中間年にあたる平成21年に初めて開催された。

(2) 開催実績

①第1回

日 時：平成21年11月14日（土）10時～16時30分

場 所：渋谷教育学園渋谷中学高等学校（東京都）

参加者：全国のユネスコスクール関係者（教職員）、一般教職員、教育行政関係者、教育研究機関等関係者、企業関係者、学生等約350名

内 容：小中学校教員によるワークショップ、基調講演、パネルディスカッション

②第2回

日 時：平成22年10月30日（土）10時～17時

場 所：国立大学法人宮城教育大学（宮城県）

テーマ：ESDで育てる“生きる力”

参加者：全国のユネスコスクール関係者（教職員）、一般教職員、教育行政関係者、教育研究機関等関係者、企業関係者、学生等約330名

内 容：基調講演、ユネスコスクール教職員による小グループでの課題別研究協議会、パネルディスカッション、ESD大賞表彰式

③第3回

日 時：平成23年11月12日（土）10時～17時

場 所：国立大学法人東京海洋大学（東京都）

テーマ：ESDの深化と拡充

参加者：全国のユネスコスクール関係者（教職員）、一般教職員、教育行政関係者、教育研究機関等関係者、企業関係者、学生等約400名

内 容：研究授業（江東区立八名川小学校児童とさかなクン）、ユネスコスクール教職員による小グループでのテーマ別交流研修会、シンポジウム、ESD大賞表彰式

④第4回

日 時：平成25年1月26日（土）10時～17時

場 所：国立大学法人奈良教育大学（奈良県）

テーマ：ESDの実践上の課題解決に向けて

参加者：全国のユネスコスクール関係者（教職員）、一般教職員、教育行政関係者、教育研究機関等関係者、企業関係者、学生等約550名

内 容：特別授業（奈良教育大学附属中学校生徒等と平野啓子氏）、ユネスコスクール教職員による小グループでのテーマ別交流研修会、シンポジウム、ESD大賞表彰式、SEAMEO-Japan ESD Award 受賞校による発表

(3) 今後の予定

①第5回ユネスコスクール全国大会（東京都多摩市）

平成25年11月30日（土）～12月1日（日）

②ユネスコスクール世界大会（岡山市）平成26年11月6日（木）～8日（土）

4 ユネスコスクール世界大会（案）

「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」（2005～2014）の最終年である2014年（平成26年）に岡山市において「ユネスコスクール世界大会」を開催し、各国のユネスコスクールにおいて行われてきた持続発展教育（ESD）の実践を共有し、共通の未来を創るために協働して取り組むことを目指し、その宣言を愛知県名古屋市で開催される「持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」において、発表するものである。

なお、その宣言は、前年に韓国において開催されるユネスコスクール60周年記念大会の成果を踏まえたものとする。

ユネスコスクール世界大会は、「ユネスコスクール全国大会」「Student（高校生）フォーラム」及び「教員フォーラム」（いずれも仮称）の3つのフォーラムで構成される。

主催：ユネスコ、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

【Student（高校生）フォーラム】

○ 日 程 2014年（平成26年）11月6日（木）～7日（金）

○ 会 場 岡山市

○ 言 語 英語、フランス語、日本語（同時通訳）

○ 参加者 1チーム5名（教員1名、Student（高校生：15～18歳）4名）

海外から33チーム 165名（教員33名、高校生132名）

日本から9チーム 45名（教員9名、高校生36名）

合 計 42チーム 210名（教員42名、高校生168名）

選抜方法：日本国内は、ユネスコスクール（高校課程）を対象に交流会のホストとなることを条件に本年6月に公募し、8月には北海道、東北、関東甲信越、中部、近畿、中国、四国・九州の7地域から各1チーム選抜する。これに加え、開催地の岡山と開催準備運営協力地域の大阪が参加する。

○ 成 果

- * 参加者（高校生）が各国のユネスコスクールにおいて行われてきた持続発展教育（ESD）の実践を発表、共有する。
- * 各国の課題を踏まえ、共通の未来を創るために協働して取り組むことを確認し、宣言文をまとめる。
- * その宣言は、ユネスコスクール全国大会のメッセージに添付し、愛知県名古屋市で開催される「持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」において、発表する。

【教員フォーラム】

・ 日 程 2014年11月7日（金）

・ 場 所 岡山市

・ 言 語 英語、フランス語、日本語（同時通訳）

・ 参加者 上記 Student（高校生）フォーラムに参加するチームの教員42名

【全国大会】

・ 日 程 2014年11月8日（土）

・ 場 所 岡山市

・ 言 語 英語、フランス語、日本語（同時通訳）

- ・ 参加者 日本ユネスコスクールの教員、都道府県・市区町村教育委員会
ユネスコスクール協力者（企業、NGO/NPO、PTA、大学生、専門家など）
国外ユネスコスクール（教員フォーラム参加教員等）
ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASP Univnet）

※ 2014 ユネスコスクール全国大会のイメージ

- ・ 日程案

11月8日（土）

ASPnet60周年記念会議からのメッセージ

Student（高校生）フォーラムからの報告

世界の good practice 発表、日本の good practice 発表

分科会（例）ネットワーク、地域連携、国際理解教育、科学教育

全体会 「愛知へのメッセージ」

（持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議へのインプット）

- ・ 成果

「愛知へのメッセージ」のイメージ（Student（高校生）フォーラムの文書は添付文書）

1. ESD 推進の上でのユネスコスクールの役割
2. ネットワークとして、ESD 固有のものが提唱できるか
3. 教育内容として今後重視すべきもの
4. 高等教育機関、地域との連携